

新たな息吹 SINCE2007



さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>E-mail y3sawano@edu.city.yokohama.jp**11月号**

全ては「つながり」の中に

～子どもの中での学びのつながり、

地域・保護者の皆さまとのつながり～

学校長 鈴木 和枝

好天に恵まれ、10月21日に、第17回運動会を実施いたしました。自分本部席にいながらも何度も胸が熱くなりました。

最高のものを創り出そうと団結し、「これが最後」と本気で臨めたことを振り返り、勝敗を受け止めつつも、悔しさに涙する6年生の姿がありました。本部席からは、他学年の競技や演技に真剣に見入り、声援を送る子どもたちの姿、そして自分の役割を確実に最後まで果たそうとする5、6年生の姿が見えました。自分のもてる限りの力を出し切ることを体現した応援団は、まさに「団」としての一体感と迫力を持ち、彼らの「気」が全校児童の気持ちを盛り立てていました。そして、子どもたち誰もが、競技でも演技でも自分の力を出し切る生き生きとした姿がありました。

さて、こうした行事は、大きなイベントという側面もありますが、教育活動、学びの過程の一つです。運動会は、一人ひとりの子どもの判断力や表現力、これまでの経験から得た知識を活用する力、主体的に取り組む力を育み、創造する場です。そして、子どもはその取組を振り返り、次へとつなげていきます。大人の世界で仕事の中に「運動会」というものが存在することはそうそうないと思います。しかし、小学校の教育課程の中にある「運動会」を通して、大人になってからも通用するような、その子の中に「生きてはたらく力の基礎」を身に付けることが使命と考え、取り組んでまいりました。振り返ってみると、それは「運動会」だけで身に付けられるものではなく、これまでの過程の積み重ねの中で身に付けてきたことを実感します。

実は、9月に全校児童が演劇鑑賞をし、その後感想を書き、劇団の方に送りました。次の文は、中学年の子どもの文ですが、子どもが劇の中に入り込み、主体的にそのよさを感じていることが伝わってきます。

・えんぎがうまくて、わたしまでうれしい気持ちや悲しい気持ちになりました。ナレーターさんの声も聞きやすかったです。見せてくれてありがとうございます。

また、これは、低学年のオリエンテーリングのふり返りの一部です。

(前略) みんなやさしかった。おべんとうがおいしかった。帰るときに、おなかがいたかった。そのときリーダーと先生がささえてくれた。自分はんかどうした。よかった。ありがとうございます。気持ちがおちついた。みんなが「だいじょうぶ？」と声をかけてくれた。うれしかった。たのしかった。

自分の出番ではなくとも応援をしたり、友達と力を合わせたり、頑張っている仲間の気持ちを想像して自分から取り組んだりといった力は、こうした様々な活動の体験、つながりの中で会得されたと考えます。

さらに、今年度は前日準備、そして当日朝に保護者の皆さまからボランティアを募らせていただきました。子どもの指導、子どもの見取り、そして役割の業務に専心できたことに加え、何よりも保護者の方々との「協働」を子どもたちが目の当たりにしたことに、子どもたちの学びへの大きな寄与があったと考えます。

大切な子どもの成長を力強く支える「伴走者」として、コロナ禍3年間を経ての運動会が、全ての教育活動の主役である子ども一人ひとりの心にしっかりと残るよう、「あの日があったから今がある」と思えるよう、そしてさらに次の活動、目標につながられるよう、これからも教職員一同日々取り組んでまいります。



前月号の「宮沢賢治リーフレット」が、廊下の掲示板に掲示されています。